

KULS ニュースレター No. 23

INDEX

ー授業評価アンケート(最終)特集号ー

●授業評価アンケート(最終)を読む

●九大留学について

●授業評価アンケート(最終)を読む●

授業評価アンケート（最終）の結果発表、アンケート結果に対する教員の「所感と対応」が公表される時期は、学期末の定期試験も終わり、その結果が戻ってくる時期である。前期の成績評価の結果は、学生には今学期の学修の到達点を示されるものであり、教員にとっても、自学自修能力を如何に涵養したか、自らの教育力を映す鏡でもあり、ご機嫌麗しい時期ではない。

今学期も、「授業と学修との協働改善」というスローガンの下、本学の教育の質の向上に向けた営みがされている。とはいえ、3年生にとっては、10回目のアンケートであり、1年生にとっても2回目のものとなる。よほど心しないと惰性に陥る。

法律基本科目のアンケート項目は、いずれ

も法曹にとって必要なマインドと技術を教員・学生が共に自覚することを求めている。しかし、【1】から【10】までと【11】から【22】までとではアンケートの性質が異なる。後者は、学生自らの学修を振り返ることを目的としている。項目の評価は、5段階であるが、【1】から【9】までは、3（ふつう）という欄はない。むりやり、そう思う（4評価）、そう思わない（2評価）に振り分けてもらっている。【1】から【9】までの平均値の目標は、3.5である。もちろん、平均値5に近づくほどよいとは思われる。万人向けの授業方法・技術というものはそうないだろうが、各項目5に近い数値の授業も少なくはない。学生の満足度がかなり高いことを意味している。

ただ、学生による授業評価を教員が丸呑みすることは、教育の本質からしてありえない。教員相互の授業参観、そして参観報告書の提出、回覧の方法で、教育の質は別途点検している。一覧表をみると、例年のことながら、1年次科目の数値は科目ごとにぶれがある。教員の授業スタイルと学生の学修姿勢とが上手く適合していないことが影響しているように思える。2年次になると、同一教員同一学生でも数値は上昇し、適切と考えられる範囲内に収まる。これも「協働改善」を反映しているように感じる。

また、アンケート結果を受けて、教員の側は「所感と対応」を示し、そこで自らの教育技法を語り、授業への取組方への提言もしている。今回のアンケートでは、新たに、項目【23】【24】を設けて、教員の所感と対応（中間アンケートに対するもの）が読まれているか否か、それを受けて学修の見直しをしたかどうかを聞いた。この2つの項目は、はい（4評価）といいえ（2評価）である。たとえば、

平成23年度前期[最終]授業評価アンケート 集計結果一覧

平成23年度前期[最終]授業評価アンケート 集計結果一覧【法律基本科目・司法試験選択科目】

			【1】 この科目は、 あなたが授業 内外で学んだ 内容が、授業 内外で学んだ 内容と一致し ていたか	【2】 この科目は、 あなたが授業 内外で学んだ 内容が、授業 内外で学んだ 内容と一致し ていたか	【3】 この科目は、 あなたが授業 内外で学んだ 内容が、授業 内外で学んだ 内容と一致し ていたか	【4】 この科目は、 あなたが授業 内外で学んだ 内容が、授業 内外で学んだ 内容と一致し ていたか	【5】 この科目は、 あなたが授業 内外で学んだ 内容が、授業 内外で学んだ 内容と一致し ていたか	【6】 この科目は、 あなたが授業 内外で学んだ 内容が、授業 内外で学んだ 内容と一致し ていたか	【7】 この科目は、 あなたが授業 内外で学んだ 内容が、授業 内外で学んだ 内容と一致し ていたか	【8】 この科目は、 あなたが授業 内外で学んだ 内容が、授業 内外で学んだ 内容と一致し ていたか	【9】 この科目は、 あなたが授業 内外で学んだ 内容が、授業 内外で学んだ 内容と一致し ていたか	【10】 この科目は、 あなたが授業 内外で学んだ 内容が、授業 内外で学んだ 内容と一致し ていたか	【11】 この科目は、 あなたが授業 内外で学んだ 内容が、授業 内外で学んだ 内容と一致し ていたか	【12】 この科目は、 あなたが授業 内外で学んだ 内容が、授業 内外で学んだ 内容と一致し ていたか	【13】 この科目は、 あなたが授業 内外で学んだ 内容が、授業 内外で学んだ 内容と一致し ていたか	【14】 この科目は、 あなたが授業 内外で学んだ 内容が、授業 内外で学んだ 内容と一致し ていたか	【15】 この科目は、 あなたが授業 内外で学んだ 内容が、授業 内外で学んだ 内容と一致し ていたか	【16】 この科目は、 あなたが授業 内外で学んだ 内容が、授業 内外で学んだ 内容と一致し ていたか	【17】 この科目は、 あなたが授業 内外で学んだ 内容が、授業 内外で学んだ 内容と一致し ていたか	【18】 この科目は、 あなたが授業 内外で学んだ 内容が、授業 内外で学んだ 内容と一致し ていたか	【19】 この科目は、 あなたが授業 内外で学んだ 内容が、授業 内外で学んだ 内容と一致し ていたか	【20】 この科目は、 あなたが授業 内外で学んだ 内容が、授業 内外で学んだ 内容と一致し ていたか	【21】 この科目は、 あなたが授業 内外で学んだ 内容が、授業 内外で学んだ 内容と一致し ていたか	【22】 この科目は、 あなたが授業 内外で学んだ 内容が、授業 内外で学んだ 内容と一致し ていたか	【23】 この科目は、 あなたが授業 内外で学んだ 内容が、授業 内外で学んだ 内容と一致し ていたか	【24】 この科目は、 あなたが授業 内外で学んだ 内容が、授業 内外で学んだ 内容と一致し ていたか
公法系	A	1	3.6	3.5	3.1	3.4	3.6	3.5	3.3	3.4	3.6	3.5	3.4	3.2	3.7	3.0	3.2	2.7	3.0	2.9	2.5	3.5	2.1	2.1	3.6	3.7
	B	2	4.3	3.9	3.6	4.0	4.0	4.0	3.8	4.1	4.1	4.4	3.6	4.0	4.0	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.8	4.3	3.0	2.1		
	C	3	4.3	4.5	4.4	4.4	4.5	4.5	4.5	4.6	4.5	4.6	4.4	4.4	4.4	4.3	4.4	4.5	4.3	3.9	4.3	2.5	2.5			
民事系	A	1	4.4	4.3	5.0	4.9	4.3	4.4	4.3	4.4	4.6	4.6	4.9	4.7	4.6	4.1	3.7	3.4	4.6	4.6	4.1	3.9	2.9	2.9		
	B	1	4.8	4.7	4.9	4.9	4.7	4.4	4.4	4.3	4.6	4.8	4.7	4.4	4.3	4.1	4.0	4.0	4.7	4.7	4.4	4.1	3.1	2.5		
	C	1	4.4	3.8	4.2	4.2	4.2	3.5	4.2	3.5	3.9	4.4	3.8	3.5	3.5	3.3	3.5	3.6	4.3	3.7	4.3	4.5	3.0	2.6	3.6	3.3
	D	2	4.1	4.1	3.9	4.1	4.2	4.2	4.4	4.1	3.4	4.3	3.7	3.7	3.7	3.9	3.7	3.7	3.8	3.8	4.0	4.0	3.1	3.2	3.6	2.9
	E	2	4.5	4.0	4.0	4.5	4.0	3.0	4.0	4.5	4.0	4.5	4.0	4.0	3.5	3.0	3.0	3.5	4.0	4.0	3.5	3.5	2.5	2.5		
	F	2	4.6	4.0	4.8	4.8	4.2	4.0	4.2	4.0	4.4	4.4	4.8	4.6	4.4	4.2	4.0	4.0	4.4	4.2	3.8	3.6	2.6	2.8	3.2	3.3
	G	2	4.5	4.5	4.5	4.7	4.2	4.2	4.5	4.7	3.8	4.0	3.8	4.3	4.2	4.0	4.2	4.2	3.7	3.8	4.2	4.2	3.5	3.2	3.3	3.2
	H	3	5.0	4.7	4.7	4.7	5.0	5.0	4.7	5.0	4.7	4.7	4.7	5.0	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	2.7	2.7	4.0	4.0
	I	3	4.7	4.7	4.7	4.7	4.9	4.7	4.7	4.4	4.7	4.7	4.6	4.6	4.6	4.4	4.6	4.4	4.6	4.6	4.4	4.3	1.7	2.6	3.1	3.6
刑事系	A	1	4.0	3.5	4.1	2.9	3.9	2.4	2.8	2.8	3.5	4.6	3.8	3.2	3.6	3.0	2.9	3.0	4.0	3.2	3.5	4.4	3.0	2.5	3.6	3.1
	B	1	4.9	4.9	4.6	4.9	4.9	4.5	4.3	4.6	4.9	4.9	4.6	4.6	4.8	4.5	3.8	4.4	4.6	4.8	4.5	4.5	3.0	2.8	3.4	3.6
	C	2	4.6	4.0	4.4	4.4	4.0	4.0	4.5	4.0	4.4	4.6	4.2	4.2	4.2	3.8	3.8	4.0	4.6	4.2	4.6	4.8	3.8	3.6	3.2	3.3
	D	3	5.0	5.0	4.8	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.8	4.8	5.0	4.7	3.5	2.8	3.3	4.0
選択科目	A	3	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	3.3	3.3	3.0	3.3	2.7	4.3	4.7	3.7	4.0	3.3	4.0

平成23年度前期[最終]授業評価アンケート 集計結果一覧【法律基本科目・司法試験選択科目以外】

			【1】	【2】	【3】	【4】	【5】	【6】		【7】	【8】	【9】	【10】	【11】	【12】		【13】	【14】	【15】	【16】	【17】	【18】
			か 教員は講義を時間通り行っていました	か （ブ ード等）は聞き取りやすかったです	教員の話し方（声の大きさや話すスピード等）は聞き取りやすかったです	教員の説明はわかりやすかったですか	講義に際して、教員の準備は十分にできていましたか	講義の進度は適切でしたか	（「5」の質問で1、2解答者のみ）なぜ、講義の進度が適切でないかと思いましたが	講義は、シラバスの講義計画に沿って行われていましたか	講義は、学生の理解度を確認しながら進められていましたか	質問等について、適切な対応はありませんでしたか	双方向・多方向の講義でしたか	講義内容の水準は適当でしたか	（「11」の質問で1、2解答者のみ）なぜ、講義内容の水準が適当でないと思いましたか		日常の学修のなかで、この科目にどれくらいの時間を割きましたか	シラバス等で提示された課題は適切かどうかおもいますか	講義の予習はどれくらいでしたか	講義の復習はどれくらいでしたか	この講義で予定されている到達度に、学期中に自分が達していると思いますか	この講義の方法や内容は、この科目で自分が到達したいレベルに達するために効果的でしたか
			配当 年次																			
その他	A	1	2.8	3.6	3.0	3.0	3.8		1	4.6	3.4	3.8	4.0	3.8		1	1.8	3.0	1.6	1.4	3.6	2.8
	B	1	3.1	3.7	2.6	3.1	3.0	1	2	3.1	3.3	3.7	4.3	3.0		3	3.3	2.2	3.3	2.0	3.0	3.0
	C	3	4.0	4.0	4.7	4.7	4.7			4.7	4.7	4.7	4.7	4.7			2.5	4.7	2.3	2.3	4.0	4.7
	D	3	4.0	4.0	4.6	4.7	4.6			4.7	4.7	4.9	4.6	4.6			2.4	4.3	2.5	3.0	4.0	4.5
	E	3	4.0	4.0	4.8	4.9	4.9			4.9	4.9	4.8	4.9	4.8			1.8	4.3	1.6	1.5	3.0	4.0
	F	3	4.0	4.0	5.0	5.0	5.0			4.9	5.0	5.0	4.9	4.9			2.0	4.3	1.4	1.4	3.7	4.6

【24】で、9名の回答者のうち、7名がはいと答え、2名がいいえと答えると、平均数値は、3.6となる。【25】は前の質問でははいと答えた者のみが回答する。はい、学修の取組

を改善したと3名が回答し、いいえ、と回答した者が4名だと、平均数値は2.9となる。【24】は4に近づくほど、教員と学生とのコミュニケーションが成立していることを意味



平成23年度前期[最終]授業評価アンケートに対する所感と対応
【 刑法B：南 由介 准教授 】

授業アンケート(最終)に対する所感

担当教員: 南 由介

科 目 名: 刑法B

		教員の重視度 科目特性	アンケート結果 中 間	アンケート結果 最 終	所 感
A 授業の 雰囲気 作り	【1】教員による受け身の学修姿勢の改善、緊張感のある授業	A	4.2	4.0	【1】および【2】については、中間時より評価が若干低下しているが、他の項目と比較して、相対的に、一定の評価を得られたものと考えている。【1】に関しては、学生へ多数回質問を行うことによって、緊張感を維持することを心がけた。この点については、自由記載欄において、質問が急にきて驚くとの指摘がなされており、過度の緊張を強いていたというならば気をつけなければならないが、質問を多用すること自体は有用であり、また、そのこと自体に対する指摘ではないものと思われる。今後とも継続していきたい。他方、【2】については、低い数値にとどまっているが、講義科目である本科目においては、2年次以降の演習科目で議論をするための武器となる基本的知識、基本的な法的概念の理解に重きを置いていることから、必要最低限度という意味での「暗記」(定義・判例・重要な学説の理解のための解説等)に時間を割き、単調な授業となって、延いては、モチベーションが上がらないという結果に至ったという点は否めない。扱わなければならない範囲も膨大であり、学修に疲労していることも一因であろう(本科目では、通常、大学法学部の4単位(一般的には、個人的法益のみ)あるいは8単位[社会的法益、国家的法益も含む]で扱っている量を3単位で扱わなければならない)。もっとも、十分に予習をすることによって、単調に感じられる授業も、予習内容を再確認するための能動的受講態度により、躍動感の感じられるものに変化し得ると思われ、学生の奮起を期待したい。この点について、【21】の予習の量は【1】【2】の数値に概ね一致することが注目される。本科目では、学生は十分に予習をしていることを前提に進行している点からすると、相応な評価であったともいえる。
	【2】教員による学修意欲や学修上の興味や法曹を目指すモチベーションの喚起	A	3.8	3.5	
B 涵養 すべき 能力	【3】教員による基本的な法的知識の習得への配慮	A	3.9	4.1	【3】については、基礎的部分を重視して講義を進行したことの評価が現れているものと考えられる。【4】については、中間時に比べ、かなり数値が低下している点が問題とされよう。その理由として考えられるのは、一つには、講義の前半で扱った個人的法益に関しては、重要性から、手厚く論じ、時間を割いた半面、後半の社会的法益、国家的法益に関しては、扱うべき問題の量の割には駆け足であったことがあげられよう。社会的法益、国家的法益については、法学部出身者においても、あまり授業で取り扱われないことからなじみが薄く、また、文書偽造罪や賄賂罪等、難解な法的議論がなされている箇所も少なくないことから、限られた時間では消化しきなかったという面もあったように思われる。より重要な一つの論点を丁寧に扱うことによって、ある程度は改善できると思われるが、他方で、扱うべき論点を扱うことができなくなってしまう問題も生じ得るであろうことから、そのバランスを考慮して、改善に努めたい。【5】については、担当者としては特に重視しているわけではなく、2年次以降の演習科目への橋渡しの意味合いでの能力の涵養に努めているのにとどまるが、判例を頻繁に扱い、どのような事実に対して、どのような判断がなされたのか、判例を読むことによって、ある程度の能力が涵養されているとの評価がなされたものと思われる。一方、【6】【7】【8】は、担当者が重視していないことから、相応の結果が出ている。【6】の評価の落ち込みがが激しいが、後半は質問・応答に時間が割けなかったことがそうさせたものと考えている。【8】に関しては、本科目においても配慮が皆無であるとすべきでないことから、1回ほどレポートを課した。もっとも、試験の出題スタイルから、また、1年次といこともあって、技術的な面を重視するのではなく、文章能力は劣ったとしても論点を的確に捉え、法的要件に事実をあてはめているかとの点を重視して試験の採点をしていることから、レポートの回数を1回にとどめている。【7】については、本講義では、全く念頭に置いていない。相応の評価である。
	【4】教員による法的思考能力の涵養への配慮	A	3.9	2.9	
	【5】教員による事実を把握したり、分析する能力の涵養への配慮	B	4.0	3.9	
	【6】教員による法的議論をする能力の涵養への配慮	C	3.2	2.4	
	【7】教員による判例がない事案などに対応するための創造的思考力の涵養への配慮	C	3.3	2.8	
	【8】教員による法的文章作成能力の涵養への配慮	C	3.3	2.8	
C 学生へ の配慮	【9】計画的授業進行と学生の理解度への配慮			3.5	【9】については、悩ましい側面がある。計画的に進めたならば、理解度に配慮しているとはいえず、理解度に配慮して進行したならば、おそらくは国家的法益を全く扱うことができず、社会的法益についても論じられない箇所が出てくるものと思われ、刑法各論として扱うべき内容を大幅に削らなければならないようになってしまうであろう。法科大学院の教育として、どちらが良いのか決めかねているのが現状である。
	【10】学生からの質問への対応			4.6	

D 学生の 成果 認識 満足度	【11】基本的な法的知識の習得度の向上の成果	A		3.8	【11】については、自宅での予習・復習と講義を通じて、あわせて修得されるものであり、【21】【22】の結果と比較するならば、適切な数値であるものと思われる。【12】については、法的思考が身についたか否かは、なかなか実感できるものではないとも思われ、低評価ではあるものの、担当者としては、潜在的にはある程度の能力が身につけているのではないかと考えている(ある事実を知っているという認識ではなく、思考そのものであることから、実感がないものと思われる)。本科目では、全体を通して、判例の理解に時間を割いてきたが、判例を読むことによって、ある事案に対し判例がどのような判断をしたのか、論点や判断方法を把握し、理解することができるならば、概ね1年次で求められる法的思考能力は涵養されていると考えて良いように思われる。【13】～【16】については、相応の結果であると考えている。
	【12】法的思考能力の涵養成果の向上の成果	A		3.2	
	【13】事実を把握したり、分析する能力の涵養の向上の成果	B		3.6	
	【14】法的議論をする能力の涵養の向上の成果	C		3.0	
	【15】判例がない事案などに対応するための創造的思考力の涵養の向上の成果	C		2.9	
	【16】法的文章作成能力の涵養の向上の成果	C		3.0	

E 学生による 取り組み 状況	【17】学生自身は主体的／緊張感ある取り組みをしたか			4.0	【17】【20】については、【21】と関係して、担当者としてギャップを感じる(念のため付言するが、全ての学生がそうでないことは当然である)。予習にかけた時間につき、3以上が7名、2以下が3名である一方、【17】【20】においては、2以下が0名である。他の科目の予習・復習にも時間がとられ、大変な思いの中で勉強をしていることは十分理解できるが、自己の中のレベルで、「頑張った」ということと、法科大学院の学生のレベルで、「頑張っている」ということは異なるという点を意識してもらいたい。【21】において2にマークするということは、担当者としては、迷うことなく【17】【20】において2以下にマークするはずであると考えている。本科目においては、もちろん、そのような学生を意識して授業を進行していない(そのような学生が本科目を受講し、成果が得られなかったとすれば、当然である)。猛省を促したい。他方、【21】において、3以上にマークした学生は、自分に対して限界を設けることなく、さらに上を目指して進んでいったもらいたい。担当者としては、4以上のマークを期待している。
	【18】学生自身のモチベーション向上の度合い			3.2	
	【19】学生のこの科目の重視度			3.5	
	【20】課題等への取り組み度合い			4.4	
	【21】予習にかけた時間			3.0	
	【22】復習にかけた時間			2.5	
	【23】「所感と対応」を読んだか			3.6	
	【24】「所感と対応」を読んで、学修への取組を改善したか			3.1	

		0	1	2	
F 学生からの 見直しの 要望 (件数)	【24】時間通りの進行(0無記載／1遅刻／2延長)	4	0	6	【24】の延長の点については、次に他の科目の講義があるにもかかわらず(火曜4限)、何度も5分程度延長してしまっていた点で、支障が生じたものと思われ、反省とともに改善したい。他方、水曜2限後の延長については、支障が生じたと思っている学生がいたならば、法科大学院の学生としては失格であろう(水曜2限を念頭に延長の指摘をした学生がいないことを信じている)。【25】【26】については、扱う範囲との関係で、何とか収めようとした結果であり、いい訳ではあるが、理解して頂きたい(無論、改善すべき点には違いがないことから、気をつけたい)。【27】では、易しすぎるとの指摘がなされており、頼もしい限りである。本科目では、法学部等の学部で法学教育を受けていない、いわゆる純粋未修者も対象とした科目であり、また、学修にあたっては基礎が重要であると考えていることから、敢えて初歩的な事項についても言及するように心がけた。この点を理解して頂きたい。物足りなさを感じる場合には、必要に応じ、質問をしてもらいたい(また、講義終了後においても構わないので疑問をぶつけてもらえば幸いである)。
	【25】話すスピード(0無記載／1遅／2速)	6	0	4	
	【26】講義の進度(0無記載／1遅／2速)	6	0	4	
	【27】講義内容の水準(0無記載／1易／2難)	9	1	0	

自由記載欄	【28】授業充実への要望(自由記載欄)	刑法各論を3単位で行うには無理があるとの指摘がなされているが、先にも言及したように、通常、学部では、社会的法益・国家的法益を含めれば8単位で行われている授業を、いかに意欲の高い学生が受講する法科大学院であっても3単位で扱うには、率直なところ、無理があるように思われる(他の科目との比較においても刑法各論は特にそのような傾向にあるように感じられる)。その改善策として、考え得る方策は、一つには、扱う範囲を減らすということがあげられる。法科大学院の授業は法曹養成を目的としていることから、範囲を縮小することには直ちに首肯し得ない面があるが、自習のみで理解し得るであろう箇所については、講義内では省略し、重要論点を手厚く論じるという姿勢もあって良いように思われる。改善を模索したい(もっとも、省略した箇所について、試験範囲から外すという選択にはかなりの躊躇を感じる)。講義の最後がいつも駆け足であるとの指摘は、上述した点にも通じることであろう。気をつけたい。授業の後半には、教員の都合によって授業が進行し、学生が置いていかれているとの指摘も同様であると思われる。質問の意図がよく分からないことがあったとの指摘については、深く反省したい。これは担当者の能力不足ゆえの問題と考えている。学生が迷わない、的確な質問を心がけたい。もっとも、あいまいな質問でも、学生はそれを敷衍して返答することがあり、それによって担当者は学生の理解度をはかっているという面もあることを指摘しておきたい。
-------	---------------------	---

● 九大留学について ●

滞在型特別聴講制度を利用して九州大学法科大学院に留学している宮路さんからレポートが届きました。鹿大法科大学院生に「不足している点」が九大生と比較しながら書かれています。しかしながら、鹿大生も九大生に十分互することが可能であるとも記されています。「良薬口に苦し」。自分らの弱点を率直に認識し、自分らの長所によって克服することが大切です。どのような環境にあらうと、意欲的であれば、必ず成果を得ることができます。一層研鑽に努めましょう。

志田惣一（教務）

滞在型特別聴講制度を利用して(抄)

今年度より、特別聴講生として九大で学修をはじめ4か月がたちました。今年の利用は1人ということではじめは不安もありましたが、同学年の友人たちは法情報論を共にしたメンバーということもありすぐにとけこむことができ、抱いていた不安はすぐに消え、日々、九大の友人たちと楽しく、緊張感を保ちながら学修をすすめています。

九大は、元院長の西山先生がニューズレター第2号で言われていたように「自学自修を基本」としています。ただ、卒業生や合格者の主催するゼミがあり、これにより、直接に合格者や優秀な先輩から指導を受けることができます。また、多くの人が1年生の段階から各自でゼミを組んで勉強するなど、ゼミ室は休日も含めて朝から夜遅くまでいつも埋まっていて、助け合いながら学生同士勉強しています。私も、九大にきてからは、ゼミに参加させてもらい友人たちと議論したり、答案を比較・批判しあったりして学修をすすめています。鹿大との大きな違いは、学生同士の議論の場、自主ゼミの活用、答案の書く量にあるように感じました。九大に来て、友人たちとゼミを組み学修する中で、独りよがりな勉強がどれだけ非効率で、合格から遠のくものであるのか気づかされました。

九大に来て、一部の優秀な人たちに囲まれ自分のできなさに気づかされつつも、逆に九大でもやっていたとの自信もつきました。九大は合格者も全国平均程度出しており、既修者やいわゆる旧試組の人も多く、朝早くから夜遅くまで勉強しています。自分も彼らより早く来て、遅く帰るなど勉強時間をより確保しています。お互いがんばりましょう。

司法政策研究科3年 宮路 真行

し、【25】は4に近づくほど、教員の所感と対応が受講学生に説得力を持ったことを意味しよう。

さて、教員が重視しているのは、【21】【22】の予習復習の時間数である。数値がそのまま時間数である。4時間以上予習にかけたとす

れば、数値は4である。各科目の特性にもよるが、基本的な知識を定着させ多少の応用力も身につけるための予習復習に6時間程度は要すると考えるなら、合計数値が6.0以上になると教員からの自学自修の働きかけが順調なことを意味するので、教員としてはほっと

する(予習復習を要せずに法曹としての技能を涵養できる授業はそうないであろうから。)アンケートの趣旨・目的については、ニューズレター16号、20号、21号でも説明されているから、併せて考えて欲しい。

采女 博文(FD委員)